

イノベーションと金融 — 金融市場と株主の役割 —

朝岡 大輔

目 次

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 問題の所在 | 4. ディスカッション |
| 2. 先行研究のレビュー | 5. 結論 |
| 3. 企業と株主 | |

企業のイノベーションにはリスクが伴うので、資本を供給する株主の許容度が問題となる。企業の行動にはイノベーションに向けた不確実な行動である探索 (exploration) と、既存の事業基盤を用いた相対的に確実な行動である活用 (exploitation) があるが、株主からのプレッシャーは、探索を阻害したり過少投資を招いたりすることが示される。このため、企業と株主間のコミュニケーションや企業内部における事業の不確実性に即した意思決定プロセスが重要となる。

1. 問題の所在

わが国の人口減少に直面する日本企業の成長の鍵として、イノベーションの重要性が取り上げられて久しい。金融市場の与え得る影響やベンチャー企業に着目して、米国のシリコンバレーをモデルとしたベンチャーキャピタル (以下、VC) や周辺産業からなるエコシステムの育成などの紹介も

行われている。そのような関心は、米国や中国において高い成長を誇るハイテク企業が次々と生み出され、高水準の投資が行われながらイノベーションを牽引し、株式市場の伸長に結び付いていることや、わが国においてもコーポレートガバナンス改革の文脈において、企業に対する投資効率向上の要請が高まっていることと無縁ではない。米国におけるVCの作用は大きく、Hall and Lerner



朝岡 大輔 (あさおか だいすけ)

明治大学商学部専任講師。東京大学法学部卒業、University of California, Berkeley, Haas School of Business修了、MBA (top 5%)、東京大学大学院工学系研究科博士後期課程修了、博士 (学術) (Ph. D.)。日本開発銀行 (日本政策投資銀行)、国土交通省航空局を経て現職。著書に朝岡大輔 [2012] 『企業成長と制度進化』(NTT出版)、論文に Asaoka, D. [2018] “Collective Intelligence or Groupthink? Group Decision Making under the Japanese Companies Act,” *Corporate Board: Roles, Duties and Composition* 14 (2), pp.27-37、朝岡大輔 [2018] 「インフラ民営化手法と価値：株式売却とコンセッション」『会計・監査ジャーナル』第31巻第1号、pp.117-122。